

令和5年度施政方針

大木哲市長は2月15日、市議会第1回定例会において、
令和5年度施政方針を次のとおり表明しました。



本日ここに、令和5年度の予算並びに諸議案をご審議いただくにあたり、私の市政に対する所信の一端を申し述べ、議員並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

市長就任以来、一貫して進めてまいりました健康を基軸とした市政運営は、まもなく丸4期の節目を迎えます。この間、世界的な金融・経済危機となったリーマンショック、新型コロナウイルスエンザの流行、東日本大震災の発生、さらには、全世界で猛威をふるい、いまだ収束が見通せない新型コロナウイルスの流行など、社会を揺るがす大きな出来事がありました。そして、少子高齢化・人口減少の進展、これに伴うひとり暮らしの高齢の方、いわゆる「おひとりさま」の世帯の増加、人工知能・AIの急速な進化など、いずれも我々が初めて経験するような、様々な環境変化に直面してまいりました。こうした環境の中、私が初めて行った平成20年度の施政方針においても述べましたとおり、「20年後、30年後、あるいは、もっと先の市民にとって、住みよいまちにしていく」という視点をもち、前例にとらわれず、未来を見据えながら、スピード感を持って、様々な課題解決に向け取り組んでま

いりました。

私は、市長就任直後の所信表明で、大和市の象徴となる大和駅周辺について、まちの品位を高める要素が乏しいことを指摘し、「安全・安心」の観点のみならず、「清潔感」や「文化の薫り」が感じられることが求められると申し述べました。まちのグレードアップを図るには、まず市の顔であり多くの人が訪れる大和駅周辺を改善し、「大和は良いところだ」「住みたい」と感じていただけるようにすることが急務であると考えました。

安全・安心などに関しましては、駅前広場や周辺の歩行空間等の改善、街路灯の照度アップなどを実施しました。加えて、「相鉄口」「小田急口」とされていた大和駅の出口を「北口」「南口」と名付け、わかりやすく表示することで、利便性の向上も図りました。また、大和駅周辺をはじめとした市内全域に県内トップクラスとなる台数の街頭防犯カメラの設置を進め、体感治安が向上する結果につながっています。さらに、平成24年には「大和市客引き行為、つきまとい行為等の防止に関する条例」を施行しています。市内の犯罪認知件数につきましては、私が市長に就任する以前の平成18年の4,363件から、令和3年には1,042件へと大き

く減少しています。また、市内のひっそり件数も、ピークの平成15年には年間200件を超えていたものが、令和3年には0件を達成するなど、安全安心なまちづくりに大きな成果が出ているものと捉えています。

文化の面では、平成28年、市民の皆様が長年待ち望んでこられた芸術文化ホールをはじめ、図書館、生涯学習センター、屋内こども広場などで構成される、文化創造拠点シリウスをオープンさせることができました。以降、大和駅前広場から伸びる「図書館の道」における人の流れも大きく変化し、まちが明るくなったとの評価も得ております。また、去る



2月にリニューアルオープンしたやまと公園

2月11日、大和駅至近にあり、「誰もが足運びたいような公園」をコンセプトに、明るく開放的でより安全に利用できる公園として整備を進めてきた「やまと公園」が、リニューアルオープンを果たしました。「住んでいて良かった」と考える大和市の実現に寄与するものと考えています。

様々な環境変化の中で、大和市の将来、また、日本の将来にとって、何よりも先んじて念頭に置かなければならないのは、少子高齢化、人口減少ではないでしょうか。

総務省統計局の人口推計によれば、日本の人口のピークは平成20年、2008年の1億2,808万人と言われており、その後減少を続けています。我が国の人口減少問題が深刻な状況であることは、報道などを通じて皆様ご存知かと思いますが、昨年12月の概算値では、日本の総人口は1億2,484万人で、ピークから約324万人、実に、四国4県丸ごと匹敵する人口が減少しているという状況にあります。

令和4年の出生数につきましては、およそ77万人と推計されることが報道されています。ピークとなった昭和24年の出生数である約270万人と比較すると、この77万人という数

字の少なさに驚かされます。

かねてより申し上げてまいりましたが、人口減少については、本来、国が対策を講じるべきものと捉えております。しかしながら、人口減少対策には一刻の猶予もありません。私は、日本の分水嶺、方向性の分かれ目に来ていると捉えていることから、基礎自治体である本市にできる対応に懸命に取り組んでまいりました。

まず、子育てしやすい環境の整備が何よりも重要であると考え、働きながら子育てをしたいというニーズに応えるべく、保育所等の入所定員拡大を推し進めてまいりました。私の就任当時の保育所等の入所定員数は1,360人でしたが、令和4年4月1日時点では5,097人と大幅に拡大しており、結果、待機児童数7年連続ゼロを達成いたしました。このほか、放課後児童クラブの待機児童数8年連続ゼロの達成、国などに先んじて開始した不妊治療費・不育症治療費の助成、赤ちゃんや保護者などを守る4つの「赤ちゃんまもるくん」、市立病院の小児救急医療の充実、新型コロナウイルスの影響下で、経済的に困窮した子育て世帯に対する、本市独自の給付金の数度にわたる支給、新年度に向けて準備を進めている小

児医療費の助成対象の拡大など、多角的に取り組んでまいりました。

さらに、現在では全市立小中学校の全学年を対象を拡大し、児童生徒の基礎学力向上を目指している「放課後寺子屋やまと」の実施、公立校としては県内初の不登校特別校分教室「WING」や専門性の高い機能を持つ特別支援教育センター「アンダンテ」の開設など、誰一人として取り残さない教育環境の充実に取り組んでまいりました。また、こどもの心と身体の健全な育成を図る「大和市子ども外遊びに関する基本条例」の制定、平成26年度に整備を開始し、0カ所だったものが現在では66カ所を数える、防球ネットなどを備えた「ボール遊びもできる公園」、大型遊具を備え市外からも人気の高い「大和ゆとの森」、市民交流拠点ポラリスの2階テラスとつながり空中散歩が楽しめる「星の子ひろば」など、魅力的な遊び場の整備を行ったほか、0

